

ボルネオジャングル体験スクール同行記

Borneo Jungle School 2007 Report

熱帯雨林で野生を見た

地球を感じた

自分を知った



編集後記

今年の夏は本当に暑かった。尋常じゃない。我慢とか、なんとかって言う次元ではなかった。毎年こんなに暑かったっけ？外出した時は街に並ぶショップ扉の隙間からたまに吹いてくるエアコンの風を受け、なんとか目的地にたどり着くという感じ。夜になってもこれが全然涼しくならない。ビールがおいすぎるぞ。そんな暑い最中に、コート姿の女性を発見！え？～つめちや暑いぢやうん？？でも、考えてみると季節は、もう秋なんです。私もブーツ出さなきゃ。ファッションは先取り。暑いとか、寒いとか、痛いとか、かゆいとか、臭いなんて言ったらオシャレなんて出来ない。秋になって、安いからといって売れ残りの夏服なんて買っちゃダメ。先端を行こうと思えば、楽をせず我慢と努力が必要。さて、私もみんなに驚かれながら、タートルでも着るかな。



ひとくフェスティバル'07

今年も国内の博物館、グループ、フラワータウン地域などが協賛で「ひとくフェスティバル」を開催します。是非、ひとくはくにご来館ください。

日時：平成 19 年 11 月 4 日 (日)
10 時～17 時
場所：兵庫県立人と自然の博物館
深田公園周辺

内容：①ひとく研究員のパフォーマンス (公園でアート みんなでつくろう！巨大恐竜 他)
②ミュージアム・ワールド (国内の博物館や公園が集まった体験型イベント)
③ひとくモール、まんぶく屋台 (フラワータウンをはじめ兵庫県下から出店)

主催：ひとくフェスティバル'07 実行委員会
公園：兵庫県阪神北県民局
協賛：株式会社北摂コミュニティ開発センター、株式会社ミツカングループ本社、財団法人兵庫丹波の森協会、神戸三田新阪急ホテル

ひとく新聞 2007 | 9 | 28号
発行：兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘6丁目
079-559-2001 (代表)
発行日：2007年9月28日
P3、4 デザイン：大澤裕美
編集：出版支援担当 / 赤澤宏樹・嶺山洋志
生化学習課 / 春名潤一・前田寛子・今西麻子
編集長：小林美樹
印刷：サンメディア

秋を彩る 兵庫の 赤とんぼ図鑑

トンボなんてみんな同じ形やし、違いなんてあるん？？なんて思っていた私。でも私たちの住む兵庫県は、童謡「赤とんぼ」の詞を書いた三木露風の出身地！そして、偶然かもしれませんが、兵庫県はアカトンボの種類が最も多い県のひとつだったんです！これは学ばなければ！八木研究員に与えられた図鑑を手に、私の小さな赤とんぼ研究が始まりました。見るとどの子も全然違う！！見れば見るほど愛着が…。私はもう、赤とんぼの世界に吸い込まれてしまいました！ちなみに、「赤とんぼ」とは赤いとんぼのこと、「アカトンボ」とはトンボ科アカトンボ属に含まれるもので、学術用語です。だから赤くないアカトンボ(⑩⑪)もいれば、アカトンボじゃない赤とんぼ(⑫)もいるんです！それだけでもビックリしませんか？さあ、この図鑑をもとに、秋を探しに～、鼻歌を歌いながら～、トンボに会いに外に飛び出しましょう～！！
(ひとく新聞編集メンバー：今西 庸子)

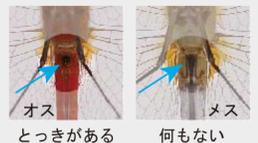
- ①アキアカネ (秋茜蜻蛉)
体長40mm内外。赤く色づくのは腹部のみ。メスはほとんど色づかない。はねは透明。成熟個体は10～11月に見られる。秋になると田んぼの周りの日当たりの良いところにある枯れ枝・竹の先に多くとまる。晴れた日の夕方には、オスもメスも活発に飛びまわ。童謡で歌われた赤とんぼは、おそらくアキアカネか、②のナツアカネ。
- ②ナツアカネ (夏茜蜻蛉)
体長35mm内外。オスは顔まで鮮やかな赤色になり、美しい。メスも腹部は赤くなることが多い。はねは透明。アキアカネより太短い。成熟個体は9月中旬～11月に見られる。
- ③ノシメトンボ (擬斗目蜻蛉)
体長45mm内外。はねは先が黒い。「擬斗目」とは織物の模様のごとで、腹部には格子状のしま模様がある。アカトンボの中で最大。オスの成熟個体は黒っぽい。成熟個体は9～11月に見られる。平地から山地まで各地に分布。秋になると①・②とともに田んぼにやってくる。
- ④コノシメトンボ (小擬斗目蜻蛉)
大きさは④ノシメトンボより小型、⑤リスアカネよりやや大型で、体型は太短い。はねの先の黒斑は大きく、濃い。オスは全身が赤くなり美しい。⑤と異なり、明るく開けたところを好む。
- ⑤リスアカネ (Ris茜蜻蛉)
体長40mm内外。はねは先が黒い。オスは赤く色づくが、腹部しか赤くならない。Risは西洋のトンボ学者の名。平地から山地の各地に分布し、8月～10月に多い。他のアカトンボより早く、8月に成熟個体が観察される。アカトンボの中では最も木陰を好む。木立に囲まれた池に生息。
- ⑥マユタテアカネ (盾立茜蜻蛉) ♀
体長35mm内外。お公家さんの眉のような黒い斑点がある。オスのはねは透明だが、メスは透明タイプと先が黒いタイプがある。成熟個体は9～11月。木立のある池や湿地、山間の田んぼ、小川などに生息。
- ⑦ミヤマアカネ (深山茜蜻蛉)
体長35mm前後。はねの先端近くに幅の広い褐色の帯があり、乳白色からピンク色の縁紋とともによく目立つ。成熟したオスは顔まで真っ赤に色づく。日本でいちばん美しいアカトンボと言われている。7～11月に見られる。アカトンボの中で唯一、流水を主な生息環境としている。兵庫県では特に六甲山麓と但馬に多い。
- ⑧マユタテアカネ ♂
日差しが強いときには、この写真のように、しっぽの先を太陽へ向け、体温が下がるのを防ぐ。⑧ミヤマアカネも同じ姿勢をとる。腹部と縁紋が赤くなる。⑨マユタテアカネ・若いオス
- ⑨マイコアカネ (舞妓茜蜻蛉)
体長33～35mm。成熟したオスは顔が青い。少し青くなるメスの個体もある。はねは透明。9～10月に多い。平地から丘陵地のため池の周りなどに生息。
- ⑩ヒメアカネ (姫茜蜻蛉)
体長30～34mm。アカトンボの中で最小、⑩に似ているが、オスの顔は灰色。メスはまだら模様が鮮やかで美しい。8～10月に見られ、開けた湿地や湿田に生息。
- ⑪ネキトンボ (根黄蜻蛉)
体長40～43mm。翅は根元が黄色い。木立に囲まれた池に生息。8～10月に成熟個体が見られる。高いところが好き。
- ⑫キトンボ (黄蜻蛉)
全身オレンジ色。他のアカトンボよりも遅く、9月頃から羽化し、秋おそくまで見られる。水生植物の豊富なため池に生息。
- ⑬ナニワトンボ (浪速蜻蛉)
体長31～36mm。オスは全身に青い粉をふいている。シオカラトンボを小さくしたような感じ。メスは黄色と黒のまだら。8～10月に見られ、平地から丘陵地の古いため池に生息。日本の固有種で、関西ローカル。
- ⑭マダラナニワトンボ (斑浪速蜻蛉)
中部地方以北に生息するムツアカネに似る。平地から丘陵地の開けたため池に生息するが、近年絶滅が心配されている。
- ⑮ウスバキトンボ (薄翅黄蜻蛉)
体長45mm内外。5月から11月に見られるが、真夏のお盆すぎから増えてきて、広場に群れ飛んでいる。毎年南の国からやってきて、兵庫県では冬を越せない。

引用文献：フジ図鑑兵庫の赤とんぼ、八木 剛、兵庫県立人と自然の博物館
ひとくのホームページからダウンロードできます。
<http://hitohaku.jp/publications/book.html>



※ 地名は撮影当時のものです

トンボのオスとメス
腹部(しっぽ)のつけ根を裏側から見ると簡単に区別ができます。アカトンボも、ヤンマも、イトトンボも、同じです。



オス とつきがある
メス 何もなし

私はまだ若いミヤマアカネの女の子。私たちは日陰が嫌い！日向が大好き☆だからこんな草地にいるの。今日はどこまで飛んでいこうかな～♪

暑いときはしっぽを太陽に向ける(香美町)